

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	コウカク'イ'ガク'ノ'トヤカク'ノ'イ'ク 公立大学法人富山県立大学									
フリガナ大学の名称	トヤカク'ノ'イ'ク'ノ'イ'ク'ノ'イ'ク 富山県立大学大学院									
大学本部の位置	富山県射水市黒河5180番地									
大学の目的	専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究することにより、深遠な学識と高度な研究能力とを兼ね備えた有為な人材を育成するとともに、学術文化の向上と社会の発展に寄与することを目的とする。									
新設研究科等の目的	<p>【情報工学研究科】 情報工学に関連する専門分野の学識を深化させ、急激に変化し多様化する地域や国際社会の問題へ柔軟に対応するための幅広い工学の専門知識を教育し、広い視野に立って社会の発展に貢献できる研究者や技術者を養成する。</p> <p>【データサイエンス専攻 (M)】 多様化する社会に潜在する課題を他者との協働により発見し、データサイエンスの専門知識をもとに数理的分析や推論により解決できる、広範な視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材を養成する。</p> <p>【情報システム工学専攻 (M)】 技術革新を支える情報システムの分野に関する教育を行うことで、創造性と柔軟性を持ちながら幅広い知識を総合的に活用し、人々や人工知能と協力して社会の幸福の向上に貢献できる人材を養成する。</p> <p>【知能ロボット工学専攻 (M)】 ロボット工学の基礎である機械工学・電子工学・情報工学のいずれかの学問領域に軸足をおきつつ、これらの領域を統合することによる革新的なロボット学研究をリードするための教育・研究を行う。さらに、異なる学問領域との交流を通じて得られる広範な視野を持ち、地域に貢献しグローバルに活躍できる多彩な人材を養成する。</p> <p>【情報工学専攻 (D)】 急激に変化し多様化する地域や国際社会が直面する諸問題に対して課題設定ができ、その解決策の立案と遂行能力を有する人材を養成する。データサイエンス、情報システム工学、及び知能ロボット工学の学問分野の先端的な教育研究を行い、各専門領域の高い学識を身につけ、情報工学の発展及び社会の持続的発展に貢献できる人材を育成する。</p>									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】
	情報工学研究科	年	人	年次人	人			年月第年次	富山県射水市黒河5180番地	情報工学部
	データサイエンス専攻 (M)	2	14	—	28	修士 (情報工学) 又は修士 (工学)	工学関係	令和8年4月第1年次		データサイエンス学科
	情報システム工学専攻 (M)	2	24	—	48	修士 (情報工学) 又は修士 (工学)	工学関係	令和8年4月第1年次		情報システム工学科
	知能ロボット工学専攻 (M)	2	24	—	48	修士 (情報工学) 又は修士 (工学)	工学関係	令和8年4月第1年次		知能ロボット工学科
情報工学専攻 (D)	3	4	—	12	博士 (情報工学) 又は博士 (工学)	工学関係	令和8年4月第1年次			
計		66			136					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>工学研究科 <u>電気電子工学専攻 (M) (15) (令和7年4月届出予定)</u></p> <p>工学研究科 機械システム工学専攻 (M) 【定員増】 (4) (令和8年4月) 生物・医薬品工学専攻 (M) 【定員増】 (4) (令和8年4月) <u>総合工学専攻 (D) 【定員減】 (△4) (令和8年4月)</u></p> <p>工学研究科 <u>知能ロボット工学専攻 (M) (廃止) (△20)</u> <u>電子・情報工学専攻 (M) (廃止) (△27)</u> ※令和8年4月学生募集停止</p>									

教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	情報工学研究科データサイエンス専攻	12科目	3科目	0科目	15科目	30単位			
	情報工学研究科情報システム工学専攻	13科目	3科目	0科目	16科目	30単位			
	情報工学研究科知能ロボット工学専攻	12科目	3科目	0科目	15科目	30単位			
	情報工学研究科情報工学専攻	1科目	2科目	0科目	3科目	16単位			
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設	情報工学研究科 データサイエンス専攻 (M)	人 6 (6)	人 3 (3)	人 1 (1)	人 (-)	人 10 (10)	人 (-)	人 2 (2)	
	情報システム工学専攻 (M)	5 (6)	1 (1)	5 (5)	- (-)	11 (12)	- (-)	2 (2)	
	知能ロボット工学専攻 (M)	6 (6)	8 (8)	5 (5)	- (-)	19 (19)	- (-)	2 (2)	
	工学研究科 電気電子工学専攻 (M)	6 (6)	8 (8)	2 (2)	- (-)	16 (16)	- (-)	3 (3)	
	小計	23 (24)	20 (20)	13 (13)	- (-)	56 (57)	- (-)	- (-)	
	情報工学研究科 情報工学専攻 (D)	16 (16)	11 (11)	- (-)	- (-)	27 (27)	- (-)	- (-)	
	小計	16 (16)	11 (11)	- (-)	- (-)	27 (27)	- (-)	- (-)	
	計	23 (24)	20 (20)	13 (13)	- (-)	56 (57)	- (-)	- (-)	
	既設	工学研究科 機械システム工学専攻 (M)	8 (8)	7 (7)	3 (3)	- (-)	18 (18)	- (-)	3 (3)
		環境・社会基盤工学専攻 (M)	7 (7)	11 (11)	2 (2)	- (-)	20 (20)	- (-)	3 (3)
生物・医薬品工学専攻 (M)		12 (12)	5 (5)	8 (8)	- (-)	25 (25)	- (-)	3 (3)	
看護学研究科 看護学専攻 (M)		10 (10)	8 (8)	10 (10)	1 (1)	29 (29)	- (-)	47 (47)	
小計		37 (37)	31 (31)	23 (23)	1 (1)	92 (92)	- (-)	- (-)	
工学研究科 総合工学専攻 (D)		31 (33)	31 (31)	1 (1)	- (-)	63 (65)	- (-)	- (-)	
看護学研究科 看護学専攻 (D)		10 (10)	5 (5)	- (-)	- (-)	15 (15)	- (-)	5 (5)	
小計		41 (43)	36 (36)	1 (1)	- (-)	78 (80)	- (-)	- (-)	
計	37 (37)	31 (31)	23 (23)	1 (1)	92 (92)	- (-)	- (-)		
合計		60 (61)	51 (51)	36 (36)	1 (1)	148 (149)	- (-)	- (-)	
職種		専 属			そ の 他		計	大学全体	
事務職員		55 (55)			0 (0)		55 (55)	・図書館専門職員(司書)及び 守衛は、委託先 から職員を派遣 ・その他の職員 は自動車運転手	
技術職員		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
図書館職員		2 (2)			10 (10)		12 (12)		
その他の職員		2 (2)			0 (0)		2 (2)		
指導補助者		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
計		59 (59)			10 (10)		69 (69)		
校地等	区分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計	大学全体		
	校舎敷地	119,939㎡	0㎡	0㎡		119,939㎡			
	その他	89,931㎡	0㎡	0㎡		89,931㎡			
	合計	209,870㎡	0㎡	0㎡		209,870㎡			
校舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計	大学全体 ・射水キャンパス の建物(23,062 ㎡)については県 からの無償貸与		
		85,577㎡ (85,577㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		85,577㎡ (85,577㎡)			
講義室等・新設研究科等の 専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室		新設研究科等の 専任教員研究室	大学全体		
		54室	171室	86室		53室			

令和7年4月届出
予定

図書・設備	新設研究科等の名称	図書		学術雑誌		機械・器具	標本	大学全体		
		〔うち外国書〕	電子図書	〔うち外国書〕	電子ジャーナル					
		冊	〔うち外国書〕	種	〔うち外国書〕	点	点			
	情報工学研究科 データサイエンス専攻 (M) 情報システム工学専攻 (M) 知能ロボット工学専攻 (M) 情報工学専攻 (M)	183,209 [40,896]	4,698 [4,133]	8,311 [5,422]	6,239 [4,608]	5,302	-			
	(183,209 [40,896])	(4,698 [4,133])	(8,311 [5,422])	(6,239 [4,608])	(5,302)	(-)				
	計	183,209 [40,896] (183,209 [40,896])	4,698 [4,133] (4,698 [4,133])	8,311 [5,422] (8,311 [5,422])	6,239 [4,608] (6,239 [4,608])	5,302 (5,302)	- (-)			
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	・教員1人当たり研究費等については、研究科単位での算出不能なため、学部との合計 ・共同研究費等、図書購入費、設備購入費は大学全体 ・図書購入費には電子ジャーナル、データベース、その他運用経費を含む。
		教員1人当たり研究費等			746千円	742千円	738千円	-千円	-千円	
		共同研究費等			201,219千円	201,219千円	201,219千円	-千円	-千円	
		図書購入費		90,371千円	89,467千円	88,572千円	87,686千円	-千円	-千円	
	設備購入費		65,029千円	64,378千円	63,734千円	63,097千円	-千円	-千円		
学生納付金以外の維持方法の概要	学生1人当たり納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次			
	県内		724千円	536千円	536千円	-千円	-千円			
県外		818千円	536千円	536千円	-千円	-千円				
奨励寄附金、受託研究費、電源立地交付金等の外、不足する分については、富山県の運営交付金を充てる。										
既設大学等の状況	大学等の名称		富山県立大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	工学部	4年	235人	-	940人		1.06倍	平成29年度	富山県射水市黒河5180番地	
	機械システム工学科	4年	60人	-	240人	学士(工学)	1.05倍	平成29年度	同上	
	知能ロボット工学科	4年	-	-	-	学士(工学)	-	平成18年度	同上	令和6年度より学生募集停止
	電気電子工学科	4年	45人	-	180人	学士(工学)	1.06倍	令和2年度	同上	
	情報システム工学科	4年	-	-	-	学士(工学)	-	令和2年度	同上	令和6年度より学生募集停止
	環境・社会基盤工学科	4年	55人	-	220人	学士(工学)	1.07倍	平成21年度	同上	
	生物工学科	4年	40人	-	160人	学士(工学)	1.04倍	平成18年度	同上	
	医薬品工学科	4年	35人	-	140人	学士(工学)	1.08倍	平成29年度	同上	
	情報工学部	4年	160人	-	320人		1.05倍	令和6年度	同上	令和6年度開設
	データサイエンス学科	4年	40人	-	80人	学士(データサイエンス)	1.01倍	令和6年度	同上	令和6年度開設
	情報システム工学科	4年	60人	-	120人	学士(工学)	1.06倍	令和6年度	同上	令和6年度開設
	知能ロボット工学科	4年	60人	-	120人	学士(工学)	1.07倍	令和6年度	同上	令和6年度開設
	看護学部	4年	120人	-	480人		1.00倍	平成31年度	富山県富山市西長江2丁目2番78号	
	看護学科	4年	120人	-	480人	学士(看護学)	1.00倍	平成31年度	同上	
	大学院工学研究科		118人	-	246人		1.36倍	平成6年度	富山県射水市黒河5180番地	
	(博士前期課程)		108人	-	216人		1.43倍			
	機械システム工学専攻	2年	20人	-	40人	修士(工学)	1.55倍	平成6年度	同上	
	知能ロボット工学専攻	2年	20人	-	40人	修士(工学)	1.60倍	平成18年度	同上	
電子・情報工学専攻	2年	27人	-	54人	修士(工学)	1.40倍	平成18年度	同上		
環境・社会基盤工学専攻	2年	15人	-	30人	修士(工学)	0.96倍	平成25年度	同上		
生物・医薬品工学専攻	2年	26人	-	52人	修士(工学)	1.53倍	平成8年度	同上		
(博士後期課程)		10人	-	30人		0.86倍				
総合工学専攻	3年	10人	-	30人	博士(工学)	0.86倍	令和3年度	同上		

大学院看護学研究科		12	-	22		1.04	令和5年度	富山県富山市西長江2丁目2番78号	
(博士前期課程)		10	-	20		1.05			
看護学専攻	2	10	-	20	修士 (看護学)	1.05	令和5年度	同上	
(博士後期課程)		2	-	2		1.00			
看護学専攻	3	2	-	2	博士 (看護学)	1.00	令和7年度	同上	令和7年度開設
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(情報工学研究科データサイエンス専攻 (博士前期課程))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修	高度実践英語	1・2前	/	2			○								1
	科学技術論	1・2後		2			○								1
	小計 (2科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2
選択	情報数理工学	1・2前	/	2			○			1					
	最適化モデリング	1・2後		2			○			1					
	形式手法	1・2前		2			○			1					
	シミュレーション・モデリング	1・2後		2			○				1				
	上級統計分析	1・2後		2			○				1				
	応用数学	1・2前		2			○					1			
	小計 (6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	3	2	1	0	0	0
知能情報学	アルゴリズム特論	1・2後	/	2			○			1					
	先端機械学習	1・2前		2			○			1					
	データビジュアライゼーション	1・2後		2			○								
	医用画像特論	1・2前		2			○				1				
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0
必修	データサイエンス特別演習Ⅰ	1通	/	2				○		6	3				
	データサイエンス特別演習Ⅱ	2通		2				○		6	3				
	データサイエンス特別研究	1~2通		8				○		6	3				
	小計 (3科目)	—		—	12	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—
合計 (15科目)		—	—	16	20	0	—	—	—	6	3	1	0	0	2
学位又は称号		修士 (情報工学) 又は 修士 (工学)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等					
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたいうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。										1学年の学期区分			2期		
										1学期の授業期間			15週		
										1時限の授業の標準時間			90分		

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員 (助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員 (助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要															
(情報工学研究科情報システム工学専攻(博士前期課程))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修 教養	高度実践英語	1・2前	○	2			○								1
	科学技術論	1・2後	○	2			○								1
	小計(2科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	2
選択 基盤情報学	UIデザイン	1・2前	○		2			○					1		
	3次元メディア表現	1・2前	○		2			○		1					
	IoT特論	1・2前	○		2			○		1					
	システム開発工学	1・2後	○		2			○			1				
	計算機構成論	1・2後	○		2			○			1				
	動的システムのデザイン	1・2後	○		2			○			1				
	小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	2	1	3	0	0	0
選択 応用情報学	テレレジスタンス学	1・2前	○		2			○		1					
	インタラクティブシステム論	1・2後	○		2			○		1					
	地域メタバース論	1・2前	○		2			○		1					
	身体性認知科学特論	1・2後	○		2			○			1				
	量子コンピュータ特論	1・2後	○		2			○			1				
小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	—	3	0	2	0	0	0	
必修 演習・研究	情報システム工学特別演習Ⅰ	1通	○	2				○		5	1	5			
	情報システム工学特別演習Ⅱ	2通	○	2				○		5	1	5			
	情報システム工学特別研究	1～2通	○	8				○		5	1	5			
	小計(3科目)	—	—	12	0	0	—	—	—	5	1	5	0	0	0
合計(16科目)		—	—	16	22	0	—	—	—	5	1	5	0	0	2
学位又は称号		修士(情報工学)又は修士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。							1学年の学期区分				2期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業の標準時間				90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																
(情報工学研究科知能ロボット工学専攻(博士前期課程))																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(の教員)
必修	教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○							1	
		科学技術論	1・2後		2				○						1	
		小計(2科目)	—		—	4	0	0	—	—	0	0	0	0	0	2
選択	共通	知能ロボット工学特論	1・2後	/		2		○			1					
		知的情報工学特論	1・2前			2		○								
		小計(2科目)	—		—	0	4	0	—	—	1	0	2	0	0	0
	テクノロジー	アドバンスロボットモーションコントロール	1・2後	/		2		○			2					
		ネットワークロボティクス	1・2前			2		○			1	1				
		小計(2科目)	—		—	0	4	0	—	—	2	1	0	0	0	0
	知的エンジニア	音響情報処理	1・2前	/		2		○			1	1	1			
		認知情報科学	1・2後			2		○			1	2				
		小計(2科目)	—		—	0	4	0	—	—	1	3	1	0	0	0
	精密工学	知的生産加工学	1・2前	/		2		○			1	1				
三次元応用計測		1・2後			2		○			1		1				
小計(2科目)		—	—		0	4	0	—	—	2	1	1	0	0	0	
子知能デバイス	先端半導体物性	1・2後	/		2		○			1	1	1				
	マイクロセンサ工学	1・2前			2		○			1		2				
	小計(2科目)	—		—	0	4	0	—	—	1	3	1	0	0	0	
必修	演習・研究	知能ロボット工学特別演習Ⅰ	1通	/	2				○		6	8	5			
		知能ロボット工学特別演習Ⅱ	2通		2				○		6	8	5			
		知能ロボット工学特別研究	1~2通		8					○		6	8	5		
		小計(3科目)	—		—	12	0	0	—	—	6	8	5	0	0	0
合計(15科目)		—	—	16	20	0	—	—	6	8	5	0	0	2		
学位又は称号		修士(情報工学)又は修士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。							1学年の学期区分				2期					
							1学期の授業期間				15週					
							1時限の授業の標準時間				90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																	
(情報工学研究科情報工学専攻(博士後期課程))																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外(助手を除く)の教員		
必修 専攻共通	情報工学特別演習	1通	/	2				○		16	11						
	情報工学特別研究	1~3通	/	12				○		16	11						
	小計(2科目)		—	14	0	0	—			16	11	0	0	0	0		
	分野横断型特別講義	1・2・3前	/	2				○		1							
	小計(1科目)		—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0		
合計(3科目)					—	16	0	0	—			16	11	0	0	0	0
学位又は称号		博士(情報工学)又は博士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等									
博士後期課程に3年以上在学し、16単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。								1学年の学期区分				2期					
								1学期の授業期間				15週					
								1時間の授業時間				90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等（情報工学部データサイエンス学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
人間	教養ゼミⅠ	1前	/	1				○							31	オムニバス	
	教養ゼミⅡ	1後		1				○							31		
	日本事情Ⅰ	1前		2				○							1		
	日本事情Ⅱ	1後		2				○							15		
	小計（4科目）	—	—	4	2	0		—			0	0	0	0	0	32	—
技術・経済	経済学Ⅰ	1前・後	/		2			○							1		
	経済学Ⅱ	2前・3後		2				○							1		
	経済学Ⅲ	2後		2				○							1		
	科学技術と社会	3前		2				○							1		
	科学技術史	1・2後		2				○							1		
	小計（5科目）	—	—	0	10	0		—			0	0	0	0	0	2	—
社会・法律	社会学Ⅰ	1前・後	/		2			○							1		
	社会学Ⅱ	2後		2				○							1		
	コミュニケーションの社会学	3前		2				○							1		
	法学Ⅰ	1前・3後		2				○							1		
	法学Ⅱ	2・3前		2				○							1		
	日本国憲法	3前		2				○							1		
	小計（6科目）	—	—	0	12	0		—			0	0	0	0	0	2	—
環境	富山と日本海	3前	/		2			○							12	オムニバス	
	環境論Ⅰ	2前・後		2				○							12	オムニバス	
	環境論Ⅱ	2前・後		2				○							6	オムニバス	
		小計（3科目）		—	—	0	6	0		—			0	0	0	0	0
言語・文化	日本語表現法	1前・後	/	2				○							1		
	コミュニケーション論	2・3前		2				○							1		
	文学Ⅰ	2前・後		2				○							1		
	文学Ⅱ	3後		2				○							1		
	比較文化学Ⅰ	1前・後		2				○							1		
	比較文化学Ⅱ	2後・3前		2				○							1		
	近現代史	3前		2				○							1		
	国際関係論	3前		2				○							1		
	海外留学科目（中国）	1・2・3・4休		2				○							1		集中
	海外研修科目（米国）	1・2・3・4休		1					○						1		集中
	海外研修科目（マレーシア）	1・2・3休		1					○						1		集中
	小計（11科目）	—	—	2	18	0		—			0	0	0	0	0	8	—
精神・身体	健康科学演習	1前・後	/	1					○						2	共同	
	心理学Ⅰ	1前・後		2				○							1		
	心理学Ⅱ	2前・後		2				○							1		
	心理学Ⅲ	3前		2				○							1		
	倫理学	2前		2				○							1		
	哲学	2後		2				○							1		
	健康科学Ⅰ	1前・後		2				○							2		
	健康科学Ⅱ	3前・後		2				○							1		
	小計（8科目）	—	—	1	14	0		—			0	0	0	0	0	8	—
基礎科目	数学Ⅰ	1前	/	2				○							1		
	数学Ⅱ	1後		2				○							1		
	物理学Ⅰ	1前		2				○							1		
	物理学Ⅱ	1後		2				○							1		
	化学Ⅰ	1前		2				○							1		
	化学Ⅱ	1後		2				○							1		
	生物学	1前		2				○							1		
	物理学Ⅰ演習	1前							○						1		
	数理演習	1後		1					○						1		
	情報系物理実験	1前		1						○					6		共同
	基礎数学	1前				1			○						1		
	基礎物理学	1前				1			○						2		
		小計（12科目）		—	—	9	8	2		—			0	0	0		0

教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等 (情報工学部データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)以外の教員			
教養科目	外国語科目	英語基礎 1	1前		1				○								8	集中
		英語基礎 2	1前	1					○								5	
		英語基礎 3	1後		1				○								8	
		英語基礎 4	1後	1					○								5	
		総合英語 1	2前		1				○								8	
		総合英語 2	2前	1					○								10	
		総合英語 3	2後		1				○								8	
		総合英語 4	2後	1					○								10	
		英語特別演習 1	3前		1				○								6	
		英語特別演習 2	3前		1				○								5	
		英語特別演習 3	3後		1				○								6	
		英語特別演習 4	3後		1				○								6	
		英語資格試験対策ゼミ	1・2・3・4前・後		1				○								1	
		海外語学研修科目	1・2・3・4休		1				○								1	
		ドイツ語 I	1前		1				○								2	
		ドイツ語 II	1後		1				○								2	
		中国語 I	1前		1				○								3	
		中国語 II	1後		1				○								3	
		英語入門 1	1前		1				○								1	
		英語入門 2	1後		1				○								1	
		日本語 I	1前		1				○								1	
		日本語 II	1後		1				○								1	
小計 (22科目)	—	—	—	7	15	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	28	—	
データサイエンスリテラシー	データサイエンスリテラシー	1前		2				○			1							
小計 (1科目)	—	—	—	2	0	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	0	—	
キャリア形成科目	キャリア形成と技術者倫理	3通		2				○			1							
小計 (1科目)	—	—	—	2	0	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	0	—	
専門科目	専門基礎科目	線形代数 1	1前		2			○									1	
		線形代数 2	1後		2			○			1							
		確率統計学 1	1前		2			○				1						
		確率統計学 2	1後		2			○			1							
		情報数学	1前		2			○			1							
		微分方程式論	2前		2			○			1							
		フーリエ解析学	2前		2			○				1						
	小計 (7科目)	—	—	—	0	14	0	—	—	—	4	2	0	0	0	1	—	
	専門共通科目	データサイエンス概論	1前		2				○			1						
		コンピュータハードウェア	1前		2				○			1						
		プログラミング 1	1後		2				○			1						
		プログラミング演習 1	1後		1				○					1				
		データマイニング基礎	2前		2				○				1					
		人工知能概論	1後		2				○			1						
		データ分析概論	1後		2				○				1					
コンピュータソフトウェア		1後		2				○				1						
プログラミング 2		2前		2				○			1							
プログラミング演習 2		2前		2				○					1					
ソフトウェア工学		2前		2				○			1							
アルゴリズムとデータ構造		2前		2				○				1						
コンピュータネットワーク		2後		2				○			1							
データサイエンス特別講義		2後		2				○			1	1				4	オムニバス・共同	
情報工学特別講義		3前		2				○			1					1	共同	
デザイン思考		2前		1					○		1					2	共同	
実践デザイン思考		3前		1					○		6	3						
データサイエンス実験 1		2後		2					○		1	1		3			共同	
データサイエンス実験 2	3前		2					○		6	3		2			共同		
技術英語	3後		1					○		6	3							
卒業研究 1	3後		4					○		6	3							
卒業研究 2	4通		8					○		6	3							
小計 (22科目)	—	—	—	30	17	0	—	—	—	6	3	0	4	0	6	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等 (情報工学部データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)以外の教員				
専門科目	経営工学	2後	/		2		○				1	1							
	オペレーションズ・リサーチ	3前		2		○			1										
	金融工学	3後		2		○			1										
	セキュリティとプライバシー	3後		2		○			1										
	社会科学特論	3後		2		○												4	オムニバス
	データマイニング応用	2後		2		○					1								
	機械学習基礎	3前		2		○					1								
	機械学習応用	3後		2		○					1								
	データベース論	2後		2		○					1	1							
	ビッグデータシステム	3前		2		○					1								
	ビッグデータプログラミング	3後		2		○						1							
	ビッグデータプログラミング演習	3後		1				○				1							
	ヒューマンコンピュータインタラクション	2後		2				○				1							
	脳情報学	3前		2				○										1	集中
	感性工学	3後		2				○				1							
	電気回路	2前		2				○				1							
	計測工学	2後		2				○				1							
	システム制御工学	3前		2				○				1							
小計 (18 科目)		—	—	0	35	0	—	—	—	6	3	0	0	0	0	5	—		
合計 (120 科目)		—	—	57	151	2	—	—	—	6	3	0	4	0	95	—			
学位又は称号	学士 (データサイエンス)			学位又は学科の分野					工学関係										
卒業要件及び履修方法									授業期間等										
総合科目17単位、基礎科目13単位、外国語科目10単位、データサイエンスリテラシー科目2単位、キャリア形成科目2単位、専門基礎科目、専門共通科目及び専門科目から80単位を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:30単位(学期))									1学年の学期区分			2期							
									1学期の授業期間			15週							
									1時限の授業時間			90分							

教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等（情報工学部情報システム工学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考					
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)				
人間	教養ゼミⅠ	1前	/	1					○							31	オムニバス			
	教養ゼミⅡ	1後		1						○								31		
	日本事情Ⅰ	1前		2					○									1		
	日本事情Ⅱ	1後			2				○									15		
	小計（4科目）	—		—	4	2	0			—								32	—	
	技術・ 経済	経済学Ⅰ		1前・後	/		2				○								1	
		経済学Ⅱ		2前・3後			2				○									1
		経済学Ⅲ		2後			2				○									1
		科学技術と社会		3前			2				○									1
		科学技術史		1・2後			2				○									1
	小計（5科目）	—		—	0	10	0			—								2	—	
	社会・ 法律	社会学Ⅰ		1前・後	/		2				○								1	
社会学Ⅱ		2後		2					○								1			
コミュニケーションの社会学		3前		2					○								1			
法学Ⅰ		1前・3後		2					○								1			
法学Ⅱ		2・3前		2					○								1			
日本国憲法		3前		2					○								1			
小計（6科目）	—	—	0	12	0			—							2	—				
環境	富山と日本海	3前	/		2				○							12	オムニバス			
	環境論Ⅰ	2前・後			2				○								12	オムニバス		
	環境論Ⅱ	2前・後			2				○								6	オムニバス		
	小計（3科目）	—		—	0	6	0			—							25	—		
言語・ 文化	日本語表現法	1前・後	/	2					○							2				
	コミュニケーション論	2・3前			2				○								1			
	文学Ⅰ	2前・後			2				○								1			
	文学Ⅱ	3後			2				○								1			
	比較文化学Ⅰ	1前・後			2				○								1			
	比較文化学Ⅱ	2後・3前			2				○								1			
	近現代史	3前			2				○								1			
	国際関係論	3前			2				○								1			
	海外留学科目（中国）	1・2・3・4休			2				○								1	集中		
	海外研修科目（米国）	1・2・3・4休			1					○							1	集中		
	海外研修科目（マレーシア）	1・2・3休			1					○							1	集中		
小計（11科目）	—	—	2	18	0			—							8	—				
精神・ 身体	健康科学演習	1前・後	/	1						○						2	共同			
	心理学Ⅰ	1前・後			2				○								1			
	心理学Ⅱ	2前・後			2				○								1			
	心理学Ⅲ	3前			2				○								1			
	倫理学	2前			2				○								1			
	哲学	2後			2				○								1			
	健康科学Ⅰ	1前・後			2				○								2			
	健康科学Ⅱ	3前・後			2				○								1			
小計（8科目）	—	—	1	14	0			—							8	—				
基礎 科目	数学Ⅰ	1前	/	2					○							1				
	数学Ⅱ	1後		2					○								1			
	物理学Ⅰ	1前		2					○								1			
	物理学Ⅱ	1後		2					○								1			
	化学Ⅰ	1前		2					○								1			
	化学Ⅱ	1後		2					○								1			
	生物学	1前		2					○								1			
	物理学Ⅰ演習	1前			1					○							1			
	数理演習	1後			1					○							1			
	情報系物理実験	1前			1						○						6	共同		
	基礎数学	1前				1				○							2			
	基礎物理学	1前				1				○							2			
小計（12科目）	—	—	9	8	2			—							16	—				

教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等（情報工学部情報システム工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
教養科目	英語基礎 1	1前			1				○							8	集中	
	英語基礎 2	1前		1					○							5		
	英語基礎 3	1後				1				○								8
	英語基礎 4	1後			1					○								5
	総合英語 1	2前				1				○								8
	総合英語 2	2前			1					○								10
	総合英語 3	2後				1				○								8
	総合英語 4	2後			1					○								10
	英語特別演習 1	3前				1				○								6
	英語特別演習 2	3前				1				○								5
	英語特別演習 3	3後				1				○								6
	英語特別演習 4	3後				1				○								6
	英語資格試験対策ゼミ	1・2・3・4前・後				1				○								1
	海外語学研修科目	1・2・3・4休				1				○								1
	ドイツ語 I	1前				1				○								2
	ドイツ語 II	1後				1				○								2
	中国語 I	1前				1				○								3
	中国語 II	1後				1				○								3
	英語入門 1	1前			1					○								1
	英語入門 2	1後				1				○								1
	日本語 I	1前			1					○								1
	日本語 II	1後			1					○								1
小計 (22科目)	—	—	—	7	15	0			—		0	0	0	0	0	28	—	
データサイエンスリテラシー科目	データサイエンスリテラシー	1前		2				○			1							
小計 (1科目)	—	—	—	2	0	0			—		1	0	0	0	0	0	—	
キャリア形成科目	キャリア形成と技術者倫理	3通		2				○			1							
小計 (1科目)	—	—	—	2	0	0			—		1	0	0	0	0	0	—	
専門科目	線形代数 1	1前			2			○								1		
	線形代数 2	1後			2			○			1							
	情報数学 1	1前			2			○			1							
	情報数学 2	1後			2			○				1						
	確率・統計学	1前			2			○				1						
	複素解析学	1後			2			○			1							
	微分方程式論	2前			2			○			1							
	フーリエ解析学	2前			2			○			1							
	情報システム工学概論	1前		2				○			1							
	スタートアップ特論	1・2・3・4休			1				○				1					
	小計 (10科目)	—	—	—	2	17	0			—	4	0	2	0	0	1	—	
	専門共通科目	コンピュータ基礎	1前		2				○					1				
		プログラミング 1	1後		2				○					1				
		プログラミング演習 1	1後		1					○				1	1			共同
プログラミング 2		2前		2				○			1							
プログラミング演習 2		2前		1					○		1		1				共同	
デザイン思考		2前		1					○			1				2	共同	
実践デザイン思考		3前		1					○		5	2	4					
企業特別講義		2後			2			○			1		1			4	オムニバス・共同	
情報工学特別講義		3前			2			○			5	1	5			1	共同	
技術英語		3前			1				○							1		
情報システム工学実験 1		2後		2						○			3	2			共同	
情報システム工学実験 2		3前		2						○			4	3			共同	
卒業研究 1		3後		4						○		5	1	5				
卒業研究 2		4通		8						○		5	1	5				
小計 (14科目)	—	—	—	26	5	0			—	5	1	5	3	0	8	—		
	データマイニング基礎	2前			2				○							1		
	データベース論	2後			2				○							1		
	ビッグデータシステム	3前			2				○							1		

教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等（情報工学部情報システム工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
専門科目	プログラミング3	2後			2		○			1							共同
	プログラミング演習3	2後			1			○		1							
	アルゴリズムとデータ構造	1後			2		○					1					共同
	情報理論	2前			2		○					1					
	デジタル信号処理	2後			2		○			1							
	データ処理	2後			2		○			1							
	コンパイラ	2後			2		○					1					
	ソフトウェア工学	3前			2		○						1				
	機械学習	3前			2		○					1					
	数値解析	3前			2		○					1					
	画像処理基礎	2前			2		○			1							
	ヒューマンインタフェース	3後			2		○			1							
	オペレーションズ・リサーチ	3後			2		○						1				
	オペレーティングシステム	3後			2		○			1							
	回路とエレクトロニクス	1後			2		○						1				
	コンピュータアーキテクチャ	2前			2		○						1				
	IoTシステムデザイン	2前			2		○			1							
	論理回路基礎	2前			2		○			1							
	論理回路応用	3前			2		○						1				
	IoTプログラミング	3前			2		○			1							
組み込みシステム工学	3前			2		○					1						
コンピュータネットワーク	2後			2		○						1					
通信方式	2後			2		○						1					
待ち行列理論と性能解析	3前			2		○			1								
小計（27科目）	—	—	—	0	53	0	—	—	—	6	1	5	1	0	3	—	
合計（124科目）				—	—	55	160	2	—	—	6	1	5	3	0	93	—
学位又は称号	学士（工学）			学位又は学科の分野					工学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
総合科目17単位、基礎科目13単位、外国語科目10単位、データサイエンスリテラシー科目2単位、キャリア形成科目2単位、専門基礎科目、専門共通科目及び専門科目から80単位を修得し、124単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：30単位（学期））									1学年の学期区分			2期					
									1学期の授業期間			15週					
									1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要																	
基礎となる学部等（情報工学部知能ロボット工学科）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
総合科目	人間	教養ゼミⅠ	1前	/	1				○						31	オムニバス	
		教養ゼミⅡ	1後		1				○						31		
		日本事情Ⅰ	1前		2				○						1		
		日本事情Ⅱ	1後		2				○						15		
		小計（4科目）	—		—	4	2	0		—		0	0	0	0		0
	技術・経済	経済学Ⅰ	1前・後	/		2			○							1	
		経済学Ⅱ	2前・3後		2				○							1	
		経済学Ⅲ	2後		2				○							1	
		科学技術と社会	3前		2				○							1	
		科学技術史	1・2後		2				○							1	
	小計（5科目）	—	—	0	10	0		—		0	0	0	0	0	2	—	
	社会・法律	社会学Ⅰ	1前・後	/		2			○							1	
		社会学Ⅱ	2後		2				○							1	
コミュニケーションの社会学		3前	2					○							1		
法学Ⅰ		1前・3後	2					○							1		
法学Ⅱ		2・3前	2					○							1		
日本国憲法		3前	2					○							1		
小計（6科目）	—	—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	2	—		
環境	富山と日本海	3前	/		2			○							12	オムニバス	
	環境論Ⅰ	2前・後		2				○							12	オムニバス	
	環境論Ⅱ	2前・後		2				○							6	オムニバス	
	小計（3科目）	—		—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	25	—
言語・文化	日本語表現法	1前・後	/	2				○							2		
	コミュニケーション論	2・3前		2				○							1		
	文学Ⅰ	2前・後		2				○							1		
	文学Ⅱ	3後		2				○							1		
	比較文化学Ⅰ	1前・後		2				○							1		
	比較文化学Ⅱ	2後・3前		2				○							1		
	近現代史	3前		2				○							1		
	国際関係論	3前		2				○							1		
	海外留学科目（中国）	1・2・3・4休		2				○							1		集中
	海外研修科目（米国）	1・2・3・4休		1					○						1		集中
	海外研修科目（マレーシア）	1・2・3休		1					○						1		集中
小計（11科目）	—	—	2	18	0		—		0	0	0	0	0	8	—		
精神・身体	健康科学演習	1前・後	/	1				○							3	共同	
	心理学Ⅰ	1前・後		2				○							1		
	心理学Ⅱ	2前・後		2				○							1		
	心理学Ⅲ	3前		2				○							1		
	倫理学	2前		2				○							1		
	哲学	2後		2				○							1		
	健康科学Ⅰ	1前・後		2				○							2		
	健康科学Ⅱ	3前・後		2				○							1		
小計（8科目）	—	—	1	14	0		—		0	0	0	0	0	8	—		
基礎科目	数学Ⅰ	1前	/	2				○							1		
	数学Ⅱ	1後		2				○							1		
	物理学Ⅰ	1前		2				○							1		
	物理学Ⅱ	1後		2				○							1		
	化学Ⅰ	1前		2				○							1		
	化学Ⅱ	1後		2				○							1		
	生物学	1前		2				○							1		
	数学演習	1後		1					○						1		
	物理学Ⅰ演習	1前		1					○						1		
	物理実験	1前		1						○					4		共同
	化学実験	1後		1							○				2		共同
	基礎数学	1前				1			○						2		
	基礎物理学	1前				1			○						2		
小計（13科目）	—	—	10	8	2		—		0	0	0	0	0	13	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等 (情報工学部知能ロボット工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員			
教養科目	英語基礎 1	1前	/		1			○							8	集中		
	英語基礎 2	1前		1			○								5			
	英語基礎 3	1後			1			○							8			
	英語基礎 4	1後			1			○							5			
	総合英語 1	2前			1			○							8			
	総合英語 2	2前			1			○							10			
	総合英語 3	2後			1			○							8			
	総合英語 4	2後			1			○							10			
	英語特別演習 1	3前			1			○							6			
	英語特別演習 2	3前			1			○							5			
	英語特別演習 3	3後			1			○							6			
	英語特別演習 4	3後			1			○							6			
	英語資格試験対策ゼミ	1・2・3・4前・後			1			○							1			
	海外語学研修科目	1・2・3・4休			1			○							1			
	ドイツ語 I	1前			1			○							2			
	ドイツ語 II	1後			1			○							2			
	中国語 I	1前			1			○							3			
	中国語 II	1後			1			○							3			
	英語入門 1	1前			1			○							1			
	英語入門 2	1後			1			○							1			
	日本語 I	1前			1			○							1			
	日本語 II	1後			1			○							1			
小計 (22科目)	—	—	—	7	15	0	—	—	—	0	0	0	0	0	28	—		
データサイエンスリテラシー科目	データサイエンスリテラシー	1前	/	2			○				1							
小計 (1科目)	—	—	—	2	0	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	—		
キャリア形成科目	キャリア形成と技術者倫理	3通	/	2				○			1							
小計 (1科目)	—	—	—	2	0	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	—		
専門科目	線形代数 1	1前	/		2			○										
	線形代数 2	1後		2			○								1			
	微分方程式論	1前		2			○								1			
	複素関数論	1後		2			○				1							
	ベクトル解析	2前		2			○				1							
	フーリエ解析	2前		2			○				1							
	確率統計	2後		2			○					1						
	工業力学	1後		2			○					1						
	電気回路	1後		2			○						1					
	情報数学	1後		2			○					1						
	小計 (10科目)	—		—	—	0	20	0	—	—	—	3	3	2	0	0	0	—
	専門共通科目	知能ロボット工学概論		1前	/		2			○			1					
		ロボット工学基礎		1前		2			○				1					
		コンピュータシステム概論		1前		2			○				1					
		プログラミング 1		1後		2			○						1			
		プログラミング 2		2前		2			○				1					
		機械製作実習		2前		2						○	1			1		
機械製図演習		2後	1						○				1	1				
デザイン思考		2前	1						○			1				2		
キャリアアップ特別講義		2後	2						○		1	1				4		
知能ロボット工学特別講義		3前	2						○		1							
プレゼンテーション演習		3前	1						○		5	3	6					
知能ロボット工学実験 1		3前	2							○		1						
知能ロボット工学実験 2		3後	2									1						
技術英語		4前		1						○						1		
卒業研究 1	3後	4						○		6	7	5						
卒業研究 2	4通	8						○		6	7	5						
小計 (16科目)	—	—	—	33	3	0	—	—	—	6	7	5	1	0	6	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等 (情報工学部知能ロボット工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員			
専門科目	情報系科目	コンピュータ工学	2前	/		2		○				1						集中	
		データ分析	2後			2		○						1					
		デジタル信号処理基礎	2後			2		○					1						
		データマイニング基礎	3前			2		○											
		人工知能基礎	3前			2		○						1					
		脳情報学	3前			2		○											
		応用デジタル信号処理	3後			2		○					1						
		ネットワーク工学	3後			2		○						1					
	小計 (8科目)	—	—		0	16	0	—	—	—	—	1	3	1	0	0	1	—	
	電子系科目	電子回路1	2前				2		○						1				
		電子回路2	2後				2		○						1				
		電磁気学1	2後				2		○					1					
		電磁気学2	3前				2		○					1					
		半導体物性	3前				2		○				1						
		半導体工学	3後				2		○					1					
		センサ工学	3後				2		○				1						
		半導体材料	4前				2		○				1						
	小計 (8科目)	—	—		0	16	0	—	—	—	—	1	2	1	0	0	0	—	
	機械系科目	材料力学	2前				2		○						1				
		機械力学	2後				2		○						1				
		機械材料学	2後				2		○										
		材料加工学	3前				2		○										
		アクチュエータ工学	3前				2		○										
		熱・流体力学	3後				2		○						1				
		計測工学	3後				2		○						1				
		精密計測加工学	4前				2		○						1				
	小計 (8科目)	—	—		0	16	0	—	—	—	—	3	2	1	0	0	1	—	
	ロボット系科目	制御工学1	2前				2		○					1					
設計工学		2後			2		○						1						
制御工学2		3前			2		○												
ロボット制御工学		3前			2		○						1						
ロボット創造演習		3後			2			○					1	1					
ロボット設計工学		3後			2		○						1						
ヒューマンインタフェース工学		4前			2		○						1						
小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—	—	—	—	2	2	0	0	0	0	—			
合計 (131科目)				—	—	61	170	2	—	—	—	6	7	5	3	0	92	—	
学位又は称号	学士 (工学)			学位又は学科の分野				工学関係											
卒業要件及び履修方法										授業期間等									
総合科目17単位、基礎科目13単位、外国語科目10単位、データサイエンスリテラシー科目2単位、キャリア形成科目2単位、専門基礎科目、専門共通科目及び専門科目から80単位を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限：30単位 (学期))										1 学年の学期区分			2 期						
										1 学期の授業期間			15 週						
										1 時限の授業時間			90 分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要																			
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科機械システム工学専攻（博士前期課程））																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員以外の教員			
必修 教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○								2	共同			
	科学技術論	1・2後		2			○			1									
	小計（2科目）			—	4	0	0	—	—	1	0	0	0	0	2				
選択 必修 MOT	技術経営論Ⅰ	1・2前	/	2			○								4	1科目2単位 オムニバス 以上必修 1科目2単位のみ 修了要件に算入可			
	地域産業論	1・2後		2			○								1				
	技術経営論Ⅱ	1・2前		2			○								1				
	創造性開発研究	1・2後		2			○								1				
	小計（4科目）			—	0	8	0	—	—	0	0	0	0	0	7				
選択 工学 熱流体工学	数理学	1・2前	/	2			○			1						オムニバス オムニバス 共同			
	エネルギー移動・変換工学特論	1・2後		2			○			1	1								
	熱流体力学特論	1・2後		2			○			1	1								
	熱工学特論	1・2後		2			○			1	1	1							
	小計（4科目）			—	0	8	0	—	—	4	3	1	0	0	0				
	選択 工学 固体力学・設計生産	CAD/CAM特論		1・2後	/	2			○			1							オムニバス
		固体力学特論		1・2前		2			○			1	1	1					
		設計生産工学特論		1・2後		2			○					1					
		小計（3科目）				—	0	6	0	—	—	2	1	2	0		0	0	
	選択 工学 材料設計加工	高分子・複合材料学		1・2前	/	2			○			2	1						オムニバス 共同
金属構造材料学		1・2後	2				○			1	1								
小計（2科目）			—	0		4	0	—	—	3	2	0	0	0	0				
必修 専門基礎 演習・研究	熱流体工学基礎	1・2前	/	2			○			1		1				共同 オムニバス			
	固体力学・設計生産工学基礎	1・2前		2			○				1								
	材料設計加工学基礎	1・2前		2			○			2									
	小計（3科目）			—	0	6	0	—	—	3	1	1	0	0	0				
	機械システム工学特別演習Ⅰ	1通		2				○			9	7	3						
	機械システム工学特別演習Ⅱ	2通		2				○			9	7	3						
	機械システム工学特別研究	1～2通		8				○			9	7	3						
小計（3科目）		—	12	0	0	—	—	9	7	3	0	0	0						
合計（21科目）				—						9	7	3	0	0	9				
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係											
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等												
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。 ただし、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を3科目6単位まで修了要件単位に算入することができる。							1学年の学期区分				2期								
							1学期の授業時間				15週								
							1時限の授業時間				90分								

（注）

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科知能ロボット工学専攻（博士前期課程））																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
必修 教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○							2	共同		
	科学技術論	1・2後		2			○							1			
	小計（2科目）			—	4	0	0	—		0	0	0	0	0		3	
選択必修 MOT	技術経営論Ⅰ	1・2前	/		2		○							4		1科目2単位 オムニバス 以上必修 1科目2単位のみ 修了要件に算入可	
	地域産業論	1・2後			2		○							1			
	技術経営論Ⅱ	1・2前			2		○			1							
	創造性開発研究	1・2後			2		○							1			
	小計（4科目）			—	0	8	0	—		0	1	0	0	0			6
選択 工学	ロボット運動制御	1・2前	/		2		○			1						オムニバス	
	マイクロセンサ工学	1・2後			2		○				1						
	マイクロロボティクス	1・2後			2		○				1						
	小計（3科目）			—	0	6	0	—		1	2	0	0	0			0
	認知情報科学	1・2後				2		○				1					
	聴覚情報処理	1・2前				2		○			1		1				
	パターン認識システム	1・2前				2		○				1					
	生体電磁環境工学	1・2前				2		○			1						
	計算論的神経科学	1・2後				2		○				1					
	応用統計学	1・2後				2		○				1					
小計（6科目）		—	0	12	0	—		2	3	2	0	0	0				
選択 工学	データ解析論	1・2前	/		2		○			1					オムニバス		
	先端材料加工学	1・2前			2		○			1							
	工業計量学	1・2後			2		○				1						
	光センシング法	1・2前			2		○			1	1	1					
	小計（4科目）			—	0	8	0	—		3	2	1	0	0		0	
選択 工学	知能情報工学	1・2後	/		2		○			1	1				オムニバス		
	ヒューマンロボットシステム	1・2後			2		○			1							
	知的学習システム	1・2前			2		○										
	センサロボット工学	1・2前			2		○				1						
	小計（4科目）			—	0	8	0	—		3	2	0	0	0		0	
必修 研究	知能ロボット工学特別演習Ⅰ	1通	/	2				○		9	9	5					
	知能ロボット工学特別演習Ⅱ	2通		2				○		9	9	5					
	知能ロボット工学特別研究	1～2通		8				○		9	9	5					
	小計（3科目）			—	12	0	0	—		9	9	5	0	0		0	
合計（26科目）					16	42	0	—		9	9	5	0	0	9		
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。また、選択の中から、前期開講科目のうち3科目6単位以上、後期開講科目のうち3科目6単位以上を必ず修得しなければならない。 ただし、論文準修士称号保有者については、選択必修のMOTの科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。										1学年の学期区分		2期					
										1学期の授業時間		15週					
										1時限の授業時間		90分					

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科電子・情報工学専攻（博士前期課程））																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く	
必修 教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○							2	共同		
	科学技術論	1・2後		2			○							1			
	小計（2科目）		—	4	0	0	—			0	0	0	0	0		3	
選択 必修 MOT	技術経営論Ⅰ	1・2前	/		2		○							4	1科目2単位 オムニバス 以上必修 1科目2単位のみ 修了要件に算入可		
	地域産業論	1・2後		2			○							1			
	技術経営論Ⅱ	1・2前		2			○					1		1			
	創造性開発研究	1・2後		2			○							0			
	小計（4科目）			—	0	8	0	—			0	0	1	0		0	6
専門 基礎	情報工学基礎	1・2前	/		2		○			8	2	4			オムニバス オムニバス		
	電子工学基礎	1・2前		2			○			3	7	2					
情報 基盤 工学	ビッグデータ数理科学	1・2前	/		2		○			1	1				オムニバス オムニバス		
	IoT・コンテキスト理解	1・2前		2			○			2							
小計（2科目）		—		0	4	0	—			3	1	0	0	0		0	
選択 電子 デバイス 工学	集積回路特論	1・2前	/		2		○			1		1			共同 共同 共同 共同		
	パワーデバイス工学	1・2前		2			○			1	1						
	薄膜電子デバイス工学	1・2後		2			○				1						
	機能材料物性特論	1・2前		2			○				2						
	量子マテリアル工学	1・2後		2			○			2	1						
	小計（5科目）			—	0	10	0	—			4	5	1	0		0	0
電子 通信 システム 工学	電波工学特論	1・2後	/		2		○			1	1				共同 共同		
	システム制御論	1・2後		2			○				1						
	光計測工学	1・2後		2			○			1	1						
	情報メディア通信工学	1・2後		2			○					1					
	小計（4科目）			—	0	8	0	—			2	3	1	0		0	0
情報 応用 工学	人間情報工学	1・2後	/		2		○			1					オムニバス オムニバス		
	システム開発工学	1・2前		2			○			1	1	1					
	システムモデリング	1・2前		2			○			2	1						
	小計（3科目）			—	0	6	0	—			4	2	1	0		0	0
必修 演習・ 研究	電子・情報工学特別演習Ⅰ	1通	/	2				○		15	11	7					
	電子・情報工学特別演習Ⅱ	2通		2				○		15	11	7					
	電子・情報工学特別研究	1～2通		8				○		15	11	7					
	小計（3科目）	—		—	12	0	0	—			15	11	7	0		0	0
合計（25科目）				—	—	16	40	0	—			15	11	7	0	0	9
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。 ただし、論文准修士称号保有者については、選択必修のMOTの科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業時間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

（注）

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等

- に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																	
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科環境・社会基盤工学専攻（博士前期課程））																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
必修 教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○							2	共同		
	科学技術論	1・2後		2			○							1			
	小計（2科目）		-	4	0	0	-		0	0	0	0	0	3			
選択 必修	MOT		/													1科目2単位 オムニバス 以上必修 1科目2単位のみ 修了要件に算入可	
	技術経営論Ⅰ	1・2前		2			○				2	1					1
	地域産業論	1・2後		2			○										1
	技術経営論Ⅱ	1・2前		2			○										1
	創造性開発研究	1・2後		2			○							1			
	小計（4科目）		-	0	8	0	-		0	2	1	0	0	4			
選択 環境工学	環境モデリング	1・2前	/	2			○			1							オムニバス
	土壌水圏科学	1・2前		2			○				1						
	大気物理化学	1・2後		2			○			1							
	環境リスク管理工学	1・2後		2			○				1						
	環境応用生態学	1・2後		2			○				1						
	大気環境学	1・2前		2			○				1						
	廃棄物資源学	1・2前		2			○				1						
	物質循環解析学	1・2後		2			○				1						
	環境技術システム論	1・2前		2			○			1							
	小計（9科目）			-	0	18	0	-		3	6	0	0	0	0		
選択 社会基盤工学	水資源システム論	1・2前	/	2			○					1			オムニバス		
	環境エネルギーシステム学	1・2後		2			○				1						
	環境政策学	1・2後		2			○			1							
	応用土質工学	1・2後		2			○			1							
	応用コンクリート工学	1・2前		2			○			1							
	環境計画論	1・2前		2			○			1							
	流域保全学	1・2後		2			○				1						
	土木事業施工論	1・2前		2			○				1						
	建設マネジメント論	1・2後		2			○				1						
	応用河海工学	1・2後		2			○			1							
小計（10科目）		-	0	20	0	-		4	5	1	0	0	1				
選択 専攻共通	インターンシップ	1・2前	/		2			○		1		1				共同	
	小計（1科目）				2	0			1	0	1	0	0	0			
必修 演習・研究	環境・社会基盤工学特別演習Ⅰ	1通	/	2				○		7	11	2				共同	
	環境・社会基盤工学特別演習Ⅱ	2通		2				○		7	11	2					
	環境・社会基盤工学特別研究	1～2通		8				○		7	11	2	0	0			
	小計（3科目）			-	12	0	0	-		7	11	2	0	0			
合計（29科目）					16	48	0	-		7	11	2	0	0	8		
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。 ただし、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。										1学年の学期区分		2期					
										1学期の授業時間		15週					
										1時限の授業時間		90分					

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄は「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。

- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校を学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科生物・医薬品工学専攻（博士前期課程））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
必修 教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○								2	1科目2単位 オムニパス 以上必修 1科目2単位のみ 修了要件に算入可	
	科学技術論	1・2後		2			○										1
	小計（2科目）			—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	0		3
選択必修 MOT	技術経営論Ⅰ	1・2前	/		2		○								4		
	地域産業論	1・2後			2		○			1							
	技術経営論Ⅱ	1・2前			2		○										1
	創造性開発研究	1・2後			2		○										1
	小計（4科目）			—	0	8	0	—		1	0	0	0	0	0		6
選択	酵素化学工学	1・2前	/		2		○			1							共同
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	0	0	0	0		
	応用生物プロセス学	1・2後			2		○			1		2					
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	2	0	0	0		
	微生物工学	1・2前			2		○			1	1	1					
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	1	1	0	0	0		
	生物有機化学	1・2後			2		○			1		1					
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	1	0	0	0		
	機能性食品工学	1・2前			2		○			1		1					
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	1	0	0	0		
	植物機能工学	1・2後			2		○			1		1					
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	1	0	0	0		
	応用生物情報学	1・2前			2		○			1		1					
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	1	0	0	0		
	製薬化学工学1	1・2前			2		○			2		1					
	製薬化学工学2	1・2後			2		○			2	1						
	小計（2科目）			—	0	4	0	—		4	1	1	0	0	0		
	バイオ医薬品工学1	1・2前			2		○			2	1						
	バイオ医薬品工学2	1・2後			2		○			1	2						
	小計（2科目）			—	0	4	0	—		3	3	0	0	0	0		
必修 演習・研究	生物・医薬品工学特別演習Ⅰ	1通	/	2			○		14	5	8						
	生物・医薬品工学特別演習Ⅱ	2通		2			○		14	5	8						
	生物・医薬品工学特別研究	1～2通		8			○		14	5	8						
	小計（3科目）			—	12	0	0	—		14	5	8	0	0	0		
合計（20科目）					16	30	0	—		14	5	8	0	0	9		
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。 ただし、論文准修士称号保有者については、MOT部門の科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。										1学年の学期区分			2期				
										1学期の授業時間			15週				
										1時限の授業時間			90分				

（注）

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行

- おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 11 高等専門学校学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科総合工学専攻（博士後期課程））																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員（助手を除く）
必修・研究	総合工学特別演習	1通	/	2				○		54	42	1				標準外
	総合工学特別研究	1～3通		12				○		54	42	1				
	小計（2科目）			—	14	0	0	—		54	42	1	0	0	0	
選択共通	ジョブ型研究インターンシップ	1・2・3通	/		2			○		54	42	1				
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		54	42	1	0	0	0	
合計（3科目）				—	14	2	0	—		54	42	1	0	0	0	
学位又は称号		博士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等						
博士後期課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時間の授業時間			90分					

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(情報工学研究科データサイエンス専攻(博士前期課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
必修	教養	高度実践英語	科学技術の分野における専門的な英語を理解し、表現する力を実践的に身につけることを目標とする。特に、論文要旨など学術的な文章作成および研究報告などに必要なプレゼンテーションについての知識やスキルを習得する。また、AIツールを効果的に英語学習に取り入れる方法を学ぶ。	
		科学技術論	主に科学技術社会論や科学史の観点から、科学技術と社会の相互的な関係について理解することを目指す。特に科学技術の社会導入に際し、人間や環境に対する負の影響を抑制するために必要な事項を学ぶ。そのため、科学者ないし技術者の社会的責任、専門家と市民の協働などの観点から、歴史的ないし現代的な問題を分析する。	
選択	システム数学	情報数理工学	情報科学・コンピュータ科学・データ科学における情報数理の基礎知識と応用力を身につけることを目指す。自然現象や社会現象を解明するため、データ・アナリティクスに依拠しデータの収集、変換、分析によりインサイトを明らかにする数理モデルの構築を行い、実データを用いて現実の課題に対して解決に至る方策を提案できる能力を養う。	
		最適化モデリング	本講義では人工知能あるいは計算知能の全体を把握することを目的とし、その代表的なアプローチである、モデルベースアプローチとデータベースアプローチを理解する。モデルベースアプローチとは、システムのある側面に注目し、それ以外の不要な部分を捨象することで、設計、検証に適した抽象的な表現(モデル)を得ることを指す。本講義では、モデルベースアプローチとして、目的に応じたシステムのモデル化と数理的な最適化や方法を習得する。また対となるアプローチとして機械学習手法をはじめとするデータ駆動アプローチを紹介し、両者の違いを理解する。	
		形式手法	形式手法は、数学に基づくシステムの分析・設計・開発・検証の技術である。本授業では、形式仕様記述言語、モデル検査、定理証明などの形式手法の基礎技術や最新の研究動向、実践的な技術を学ぶ。本授業の達成目標は、形式手法に関する学習を通じて、システムの正確性と信頼性を保証し、システムの品質向上に資する技術を修得することである。	
		シミュレーション・モデリング	機械・構造物・都市・社会等の複雑なシステムを設計・評価・検証するために、「シミュレーション」は、性能の向上、省コスト等に非常に有効な手法である。シミュレーションを行うためには、対象システムのエッセンスを抽出し、対象システムを模倣する「モデル」を作成することが必要である。本講義では、物理シミュレーション、意思決定モデルを含むエージェントシミュレーション等、目的に応じたシステムのモデル化とシミュレーション手法を習得する。	
		上級統計分析	本講義ではPythonとRという人気のプログラミング言語を通じて、確率分布、ロジスティック回帰、対数変換、時系列などの上級統計理論を学生に紹介する。学生は、データの収集、分析、正確な結論の導出方法を学び、さまざまなビジネスコンテキストにおいて、複雑なデータ分析を実行しながら、これらの言語の類似点と相違点を探求する。	
		応用数学	様々な現象をモデル化し、性質や構造を解明するグラフ理論は情報ネットワーク、データ解析へ多くの応用を持つ。本講義では有向グラフの表現論を学ぶことを目標とする。まず、行列の固有値、固有空間、対角化、三角化について理解し、ジョルダン標準形への変形の仕方を習得する。また例を通じてグラフ理論について学ぶ。その後、ガブリエルの問題を通じてグラフの表現論を学び、計算技術を身につける。	
		情報情報学	アルゴリズムはプログラムを作る人間が必ず学ばなければならない学問分野である。良いプログラムの条件の一つに、処理が高速でかつ消費メモリの少ないことが挙げられる。本講義では、プログラミングの際の知識として役立つように、各アルゴリズムの動作原理からプログラムとして実装する際の注意点まで詳細に解説する。本講義の達成目標は、講義で取り上げる各アルゴリズムの動作原理を理解すると同時に、各アルゴリズムの時間計算量を理解することにある。	

選択	知能情報学	先端機械学習	機械学習理論は、急速に進展しているAI技術には欠かせない学問分野となっている。本講義では、教師あり学習（回帰と分類、混同行列、訓練誤差、汎化誤差、交差検証など）、教師なし学習（クラスターリング、次元削減など）、強化学習（動的計画法、モンテカルロ法）の理論について学ぶ。また、順伝搬型ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワーク、再帰型ニューラルネットワーク（RNN、LSTMなど）の一般的なモデルの構造や特性を理解し、利用目的に応じて適切なネットワークモデルを選択し、適用する技能を修得する。
		データビジュアライゼーション	データビジュアライゼーションとは、データをグラフやチャートなどを用いて可視化する手法である。データを数字の羅列ではなく、その関係性や構造を図式化して表現することで、人間が直感的に理解しやすくなることが可能である。本講義では、散布図やヒストグラムなどの基本的なグラフ表現から樹形図など、データマイニングにおいて用いられる可視化手法を俯瞰するほか、形式概念分析を取り上げ、ハッセ図による概念の包含関係や概念同士の関係性を表現する手法について理解する。
		医用画像特論	医療分野において日々発生する膨大な画像データを有効活用し、正確な診断を迅速に行うことが求められる。本講義では、単純X線画像、CT、MRI、SPECT、PETなどの各種医用画像の画像形成理論、画像処理を講義する。また、それぞれにおけるコンピュータ支援診断システムの開発状況や、医用画像分野におけるAI技術の応用についても講義する。さらに、医用画像の評価方法や臨床応用における問題点を講義する。本講義の達成目標は、医用画像の形成と診断への利用を理解し、コンピュータ支援診断システムの要素技術を理解することである。
必修	演習・研究	データサイエンス特別演習 I	<p>（概要）修士論文の研究遂行のために必要となる当該分野および周辺分野の基礎的知識および応用能力を養成するために、セミナー形式で基礎的課題についての演習・発表・討論を行う。</p> <p>具体的には、各教員が以下の研究分野に関わる基本的な知識を習得させ、基礎的な課題を理解させる。</p> <p>(1 高木 昇) 人工知能技術に立脚した福祉情報工学や教育工学に関する研究</p> <p>(2 奥原 浩之) 産業・経済・金融における数理工学に関する研究</p> <p>(3 高野 博史) ヒューマンセンシングによるヒトの感情認識や生体個人認証に関する研究</p> <p>(4 本吉 達郎) 教育・学習や対人援助を支援するインタフェースに関する研究</p> <p>(5 中村 正樹) 数学に基づくシステムの設計、検証、実装に関する研究</p> <p>(6 榑原 一紀) システム最適化に基づく、かきこい問題解決の実現に関する研究</p> <p>(7 松本 卓也) 最適化・シミュレーション・機械学習を応用したシステム論的問題解決に関する研究</p> <p>(8 長谷川 晃) AIを用いた医療画像診断支援システムの開発</p> <p>(9 Rene, Antonio) 上級統計分析に関する研究</p>

必 修	演 習 ・ 研 究	データサイエンス特別演習 II	<p>(概要) 修士論文の作成に必要な研究手法を見出す能力や問題解決能力の養成を目的として、具体的研究課題(研究テーマ)に関連する研究手法や研究解決手法について演習・討論を行う。 具体的には、各教員が以下の研究分野の課題に対する問題解決能力ならびにプレゼンテーション能力を養成する。</p> <p>(1 高木 昇) 人工知能技術に立脚した福祉情報工学や教育工学に関する研究</p> <p>(2 奥原 浩之) 産業・経済・金融における数理工学に関する研究</p> <p>(3 高野 博史) ヒューマンセンシングによるヒトの感情認識や生体個人認証に関する研究</p> <p>(4 本吉 達郎) 教育・学習や対人援助を支援するインタフェースに関する研究</p> <p>(5 中村 正樹) 数学に基づくシステムの設計、検証、実装に関する研究</p> <p>(6 榑原 一紀) システム最適化に基づく、かきこい問題解決の実現に関する研究</p> <p>(7 松本 卓也) 最適化・シミュレーション・機械学習を応用したシステム論的問題解決に関する研究</p> <p>(8 長谷川 晃) AIを用いた医療画像診断支援システムの開発</p> <p>(9 Rene, Antonio) 上級統計分析に関する研究</p>
	データサイエンス特別研究	<p>(概要) データサイエンス専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し研究を行い、修士論文としてまとめる能力と研究成果を得る。 具体的には、各教員が以下の研究分野の課題を解決するための研究開発について指導を行う。</p> <p>(1 高木 昇) 人工知能技術に立脚した福祉情報工学や教育工学に関する研究</p> <p>(2 奥原 浩之) 産業・経済・金融における数理工学に関する研究</p> <p>(3 高野 博史) ヒューマンセンシングによるヒトの感情認識や生体個人認証に関する研究</p> <p>(4 本吉 達郎) 教育・学習や対人援助を支援するインタフェースに関する研究</p> <p>(5 中村 正樹) 数学に基づくシステムの設計、検証、実装に関する研究</p> <p>(6 榑原 一紀) システム最適化に基づく、かきこい問題解決の実現に関する研究</p> <p>(7 松本 卓也) 最適化・シミュレーション・機械学習を応用したシステム論的問題解決に関する研究</p> <p>(8 長谷川 晃) AIを用いた医療画像診断支援システムの開発</p> <p>(9 Rene, Antonio) 上級統計分析に関する研究</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の教に応じ、適宜枠の教を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(情報工学研究科情報システム工学専攻(博士前期課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
必修	教養	高度実践英語	科学技術の分野における専門的な英語を理解し、表現する力を実践的に身につけることを目標とする。特に、論文要旨など学術的な文章作成および研究報告などに必要なプレゼンテーションについての知識やスキルを習得する。また、AIツールを効果的に英語学習に取り入れる方法を学ぶ。	
		科学技術論	主に科学技術社会論や科学史の観点から、科学技術と社会の相互的な関係について理解することを目指す。特に科学技術の社会導入に際し、人間や環境に対する負の影響を抑制するために必要な事項を学ぶ。そのため、科学者ないし技術者の社会的責任、専門家と市民の協働などの観点から、歴史的ないし現代的な問題を分析する。	
選択	基盤情報学	UIデザイン	機械と人との間のマンマシンインタフェースをはじめ、機械を通じて人と人との間のコミュニケーション技術はとも重要なファクターとなっていて、特にユーザーインタフェースの領域は、エンジニアにとっても重要な要になっている。本講義では、中でも、システムにおける各種インタフェースの考え方について、全ての人間に優しいデザインとしてのユニバーサルデザイン、人のヒューマンエラーに対応したフォールトトレランス技術、読みやすい分かりやすい表示を意図した表現技術などをまとめた、UIデザインについて、現在の状況と、今後の対応について解説していく。	
		3次元メディア表現	本講義では、物理空間や色空間における情報取得・処理・表示の理論と実践を学ぶ。最新の研究論文を通じて、先端的な画像処理やセンシング技術の事例を分析し、それらの基礎原理や応用例を理解する。 講義では3Dディスプレイ、3Dセンサ技術、ディープラーニング、インタラクティブアートなどのテーマを取り上げ、これらの技術の歴史や具体的な応用方法を整理する。最終的には、これらの今後の技術動向を議論し、研究プロジェクトを企画・実行する能力を養成する。	
		IoT特論	センサデータを活用するIoTシステムについて、ユビキタスコンピューティング、コンテキストウェア、センサネットワーク、ロケーションウェアシステムなど、過去の研究領域も含めて捉える。特に、コンテキストウェアやIoTシステムの基本である、センサ情報の取得、データ処理、アクチュエーションの3段からなるモデルについて学ぶ。また、社会課題の解決に資するIoTシステムをデザインすることをワークショップなどの形式で行い、情報技術者として必須となる課題発見、解決力を養う。	
		システム開発工学	システム開発においては、ソフトウェアの要素技術だけでなく場合によってはハードウェアに関わる知識が必要であり、また全体の構成に関する検討が必要になる。本講義では、簡単なシステムの開発を通じて、要素技術の連携や仕様定義の記述方法と重要性について学び、また開発スケジュールの管理を体験する。	
		計算機構成論	半導体の微細化の限界が近づくにつれ、汎用計算機に加えて、特定用途に特化したアーキテクチャによる計算機の重要性が高まっている。本講義では、それらの計算機構成とその構成を踏まえた処理の高速化に関して、深層学習を題材に解説する。	
		動的システムのデザイン	システムのデザインにおいて、システムの記号による記述と解析と、過去の知見を活用した統合によって、設計者ないしはユーザにとって望ましい振る舞いをするシステムを考えて設計することが必要となる。本講義では、特に動的システムの挙動を数量的に捉え、状態空間モデルを起点としてシステムの記述と解析手法について概説し、統合方法として制御系設計や最適化について学習する。さらに最新の研究動向について議論を行うことで、抽象論としてのシステムを多角的に捉え、理解を深める。	
		応用情報学	レイグジスタンス学	レイグジスタンスは、高臨場感通信技術とロボットの高度の追従制御技術により、あたかもロボットと一体化したかのような感覚でロボットを操縦できる技術である。本講義では、レイグジスタンスの基盤技術であるVRインターフェイス技術、ロボット技術、ネットワーク技術から、発展が期待されている生体信号認識技術、生体刺激技術、機械学習技術まで、これからのレイグジスタンスにおける重要なトピックについて講義する。

選択	応用情報学	インタラクティブシステム論	<p>バーチャルリアリティをはじめとしたインタラクティブなシステムを実現するためには、人間の特性をも踏まえた円滑なインタフェースの設計・構築や、実時間シミュレーション等のリアルタイム処理の実装など、システム全体に渡る綿密な設計を踏まえた構築が必須となる。本講義では、人間特性、VR分野も含めた各種入出力機器、実時間シミュレーションに加えて、インタラクティブシステムの構築事例も紹介しながら概説する。さらに、最新の研究動向の調査や発表も行うことで、インタラクティブシステムに対する理解を深める。</p>
		地域メタバース論	<p>近年、地方創生のひとつの手段としてのメタバースが注目されており、一部の地域で実証や検証がなされている。その有用性や課題が明らかとなる中、本講義では、地域志向のメタバースについて論じ、デザイン思考を取り入れてそのメタバース周辺の課題の抽出をする。また、その課題を解決するため、実践形式でメタバースの提案や構築も試みる。また構築したメタバースの有用性について検証も行う。</p>
		身体性認知科学特論	<p>人間を含めた主体が外界を理解して概念知識を獲得するには外界と相互作用する身体が必須であり、身体がその主体の認知機能に影響を与えるという身体性認知の概念は、哲学・認知科学・ロボティクスなど様々な領域で議論されている。本科目では、人の社会生活の場が現実世界から徐々にサイバー空間に移行し、デジタルクローンなどのAI技術が急速に発展する中で、人の自己同一性を規定する身体に着目し、身体性認知に関する心理学的研究や身体性に関する議論を幅広く取り上げて紹介する。</p>
		量子コンピュータ特論	<p>量子コンピュータ (Quantum Computer) とは量子力学の法則を利用して数学と論理的な演算、情報処理およびデータ保存を実現できるマシンである。量子コンピュータでは量子ビット (Quantum Bits) で表される情報を保存・処理でき、並列計算を可能とする。このような量子コンピュータの性能を最大限に活用するためには、量子アルゴリズムの開発が非常に重要である。本授業では量子コンピュータに関する基礎知識 (量子重ね合わせや量子もつれなど)、量子コンピュータの動作原理と量子アルゴリズム (量子ゲート型や量子アニーリング型など) を理解することを目的とする。</p>
必修	演習・研究	情報システム工学特別演習 I	<p>(概要) 研究テーマの遂行に必要な目標達成プロセスを発見する能力を養成することを目的として、各研究テーマで発生する問題の解決について、セミナー形式による演習・発表・討議を行う。</p> <p>(2 中田 崇行) 3次元環境におけるオブジェクトの位置姿勢を認識する技術に関する研究</p> <p>(3 大山 英明) レイジスタンス型ロボット操縦システムの研究</p> <p>(4 唐山 英明) 生体情報や行動情報等の人間情報の計測と解析に関する研究</p> <p>(5 田川 和義) バーチャルリアリティとその応用に関する研究</p> <p>(6 岩本 健嗣) センサを利用したユーザーの状況認識に関する研究</p> <p>(7 浦島 智) ユビキタスセンサ情報による行動識別とその応用に関する研究</p> <p>(8 西原 功) 見やすい映像にするためのリアルタイム動画画像処理技術に関する研究</p> <p>(9 井上 康之) バーチャルリアリティ・認知科学に関する研究</p> <p>(10 崔 高超) ニューラルネットワークを用いた高精度データ処理に関する研究</p> <p>(11 森島 信) ブロックチェーンシステムの高性能化、高信頼化の研究</p> <p>(12 大倉 裕貴) 非線形システムに関するモデリングおよび制御手法の研究</p>

必修	演習・研究	情報システム工学特別演習 II	<p>(概要) 修士論文の作成に必要な研究手法を見出す能力や問題解決能力の養成を目的として、具体的研究課題(研究テーマ)に関連する研究手法や課題解決手法について演習・発表・討論を行う。</p> <p>(2 中田 崇行) 3次元環境におけるオブジェクトの位置姿勢を認識する技術に関する研究</p> <p>(3 大山 英明) テレグジスタンス型ロボット操縦システムの研究</p> <p>(4 唐山 英明) 生体情報や行動情報等の人間情報の計測と解析に関する研究</p> <p>(5 田川 和義) バーチャルリアリティとその応用に関する研究</p> <p>(6 岩本 健嗣) センサを利用したユーザーの状況認識に関する研究</p> <p>(7 浦島 智) ユビキタスセンサ情報による行動識別とその応用に関する研究</p> <p>(8 西原 功) 見やすい映像にするためのリアルタイム動画処理技術に関する研究</p> <p>(9 井上 康之) バーチャルリアリティ・認知科学に関する研究</p> <p>(10 崔 高超) ニューラルネットワークを用いた高精度データ処理に関する研究</p> <p>(11 森島 信) ブロックチェーンシステムの高性能化、高信頼化の研究</p> <p>(12 大倉 裕貴) 非線形システムに関するモデリングおよび制御手法の研究</p>	
		情報システム工学特別研究	<p>(概要) 研究指導計画に従って、マルチメディア情報処理、情報機器のインテリジェント化・高度化、生体情報解読、各種センサから得られるビッグデータ処理など、今後の高度情報社会において重要な分野の研究を行う。</p> <p>(2 中田 崇行) 3次元環境におけるオブジェクトの位置姿勢を認識する技術に関する研究</p> <p>(3 大山 英明) テレグジスタンス型ロボット操縦システムの研究</p> <p>(4 唐山 英明) 生体情報や行動情報等の人間情報の計測と解析に関する研究</p> <p>(5 田川 和義) バーチャルリアリティとその応用に関する研究</p> <p>(6 岩本 健嗣) センサを利用したユーザーの状況認識に関する研究</p> <p>(7 浦島 智) ユビキタスセンサ情報による行動識別とその応用に関する研究</p> <p>(8 西原 功) 見やすい映像にするためのリアルタイム動画処理技術に関する研究</p> <p>(9 井上 康之) バーチャルリアリティ・認知科学に関する研究</p> <p>(10 崔 高超) ニューラルネットワークを用いた高精度データ処理に関する研究</p> <p>(11 森島 信) ブロックチェーンシステムの高性能化、高信頼化の研究</p> <p>(12 大倉 裕貴) 非線形システムに関するモデリングおよび制御手法の研究</p>	

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(情報工学研究科知能ロボット工学専攻(博士前期課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
必修	教養		<p>科学技術の分野における専門的な英語を理解し、表現する力を実践的に身につけることを目標とする。特に、論文要旨など学術的な文章作成および研究報告などに必要なプレゼンテーションについての知識やスキルを習得する。また、AIツールを効果的に英語学習に取り入れる方法を学ぶ。</p>	
			<p>主に科学技術社会論や科学史の観点から、科学技術と社会の相互的な関係について理解することを目指す。特に科学技術の社会導入に際し、人間や環境に対する負の影響を抑制するために必要な事項を学ぶ。そのため、科学者ないし技術者の社会的責任、専門家と市民の協働などの観点から、歴史的ないし現代的な問題を分析する。</p>	
共通			<p>ロボット工学は機械工学、電子工学、情報工学にまたがる幅広い知識の融合的な学問分野である。本講義では、ロボット工学の観点から機械工学、電子工学、情報工学がどのように関連しているか学ぶ。また、異なる分野の研究においても内容を理解し自身の研究に取り入れるスキルを身につけるため、学生同士の研究発表、意見交換の場も設ける。なお、コーディネーターは専任教員が務める。</p>	
			<p>(概要) 人間は瞬時に五感から得られた情報を処理して違いを見分けたり、それが何であるかを認識したり、次の行動を考えたりする。そのような知的な情報処理能力を備えたロボットはセンサから外界の情報を受け取り、パターンを識別し、行動を決定し、また学習しなければならない。本講義ではそれらの研究の共通の基盤となる人工知能・機械学習の理論を学ぶ。また、音声・文字の認識と生成、画像分類、物体検出、動作認識などの応用技術についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 中井 満/全8回：機械学習、パターン認識、時系列処理) (18 孔 祥博/全7回：画像分類、物体検出、動作認識)</p>	オムニバス方式
選択	機能ロボティクス		<p>(概要) 実環境におけるロボットの効果的な運用には、機構・制御・センシングを横断した議論が重要である。本講義では、ロボットにおける環境認識、経路計画といった上位の意思決定に関する手法に基づき、位置・力の制御など下位の正確な制御に関する手法を紹介するとともに、実用的なロボットのモーションコントロールについて議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 増田 寛之/全5回) ソフトコンピューティングを中心とした知的制御を講義し、主に上位階層における適用例を紹介する。 (1 小柳 健一/全10回) 運動学や運動方程式に基づいた運動制御を講義し、主に下位階層における適用例を紹介する。</p>	オムニバス方式
			<p>(概要) 実環境におけるロボットの効果的な運用には、機構・制御・センシングを横断した議論が重要である。本講義では、これらを繋いだシステムや、作業環境とロボットを含むシステム、そして複数ロボットシステムに着目し、実環境応用を意識したネットワークロボティクスについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 増田 寛之/全5回) 移動ロボットの自律走行には、自己位置の把握や経路計画が求められる。本講義では、SLAMや強化学習を中心とした自己位置推定や経路探索についてアルゴリズムと実例を交えて講義する。</p> <p>(10 澤井 圭/全10回) 被災地や農地といった不整地における移動ロボットの運用には、環境・作業・ロボット形状の違いにより自己位置を把握する術を選択する必要や、遠隔操作や複数ロボット間通信に関する議論が求められる。本講義では、この内容を意識した通信ネットワークと絡む自己位置推定手法と、ロボットのための通信について講義する。</p>	オムニバス方式

知的 インタ フェース 工学	音響情報処理	<p>(概要) 音は、聴覚、立体音響、音声生成、音楽など、ヒトの幅広い活動に関わっている。ロボットにそのような能力を持たせるためには、ヒトのメカニズムを解明する必要がある。本講義では、まず物理的な音について概説するとともに、聴覚の生理学的メカニズムについて末梢系と中枢系について理解する。また、音の基礎的な感覚・知覚について論じたのち、より高次な立体音、音声、音楽の知覚・認知について論じる。そして、音声の生成メカニズムや、音声の音響特徴について理解する。さらに、知覚・認知・生成メカニズムに基づく、立体音響技術、音声技術、音楽情報処理技術についても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 森川 大輔/全5回: 物理、生理、心理、空間音響) (16 岡崎 聡/全5回: 生理、心理、音楽) (3 Mokhtari, Parham/全5回: 空間音響、音声、音楽)</p>	オムニバス方式
	認知情報科学	<p>(概要) 人間が外界の情報を認知する働きは、その柔軟性において最高の情報処理システムであると言ってよい。この情報処理の機能を明らかにし、人工的なシステム構築のための基礎的な知見を得ることは、基礎科学的にも工学的にも大きな意義がある。本講義では、人間の視覚認知について代表的な心理物理学および神経科学的研究について考察する。さらに、計算理論的な枠組でそれらを統合する計算論的神経科学というアプローチについて理解を深め、脳の運動制御メカニズムについて理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 井戸 啓介/全8回: 視覚、視覚的注意、視覚的意識) (9 森重 健一/全7回: 運動、ブレイン・マシン・インタフェース)</p>	オムニバス方式
	知的生産加工学	<p>(概要) ロボットや生産情報を活用し、高精度・高効率な加工を実現しながら持続可能な開発目標を達成するには、精密な加工・計測を基礎とした生産加工学への理解が重要である。本講義ではマイクロ/ナノスケールにおける諸現象に着目した超精密加工および超精密計測を中心とし、知的な生産加工学について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 岩井 学/全8回) 各種の形状付与加工(切削、研削、研磨加工など)はそれぞれ単独で扱われてきたが、超精密加工の実現には、各々の加工技術間のシステム化を避けて通ることはできない。従来単独で扱われてきた各種加工技術を制御、計測、評価法まで含めて一貫して論ずる。</p> <p>(11 伊東 聡/全7回) センサや計測機器からの容易かつ大量のデータ取得は、IoTやIndustry4.0に代表される生産工程や流通工程の革新的な発展に貢献するものと期待される一方で、測定の信頼性や測定という行為自体の重要性はますます増加している。本講義では、主に測定における正確性や信頼性について、測定標準、トレーサビリティ、校正、不確かさなどについて理論的および実践的観点から解説を行い、最先端のセンサ、測定技術、計測機器について理解する。</p>	オムニバス方式
精密 工学	三次元応用計測	<p>(概要) ロボティクス(ロボットやドローンの姿勢制御)や情報工学(バーチャルリアリティ)などの技術には、3次元におけるモノやヒトの振る舞いを「計測」することが求められる。3次元計測手法には、カメラなどの画像から位置を推定するビデオモーションキャプチャや、加速度・角速度から位置を推定する慣性センサ式モーションキャプチャ、反射マーカをトラッキングする光学式モーションキャプチャなど様々な手法がある。本講義では、画像処理やセンサなどを応用した様々な3次元計測手法を学んでいく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 神谷 和秀/全8回) 3次元計測手法は「接触式」と「非接触式」に分類することができるが、機械やヒトの動的な振る舞いを解析するには、非接触式の手法が有効である。講義では非接触式の3次元計測手法の原理について解説し、また、実用化された装置の紹介等を行い、非接触式3次元計測手法について理解を深める。</p> <p>(19 松本 賢太/全7回) 機械やヒトの動的な振る舞いを理解するには、そのダイナミクスを理解することが求められる。ダイナミクスを低次元(1次元や2次元)に近似することで、理解が容易になる一方、人工衛星やスポーツ動作などの姿勢変化が伴う振る舞いは、3次元空間での記述が必要となる。本講義では3次元空間における位置・姿勢の表現方法およびモーションキャプチャに代表される3次元計測方法について理解する。</p>	オムニバス方式
	選択		

選択	知的電子デバイス	先端半導体物性	<p>(概要) ロボットは複数の工学技術の融合であり、その要素技術の1つに半導体がある。本講義では、有機、無機半導体の電子輸送、発光特性、バンドギャップなどの物性および、第一原理計算に関する各手法に関して解説する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 松本 公久/全5回) 半導体の物性を理解するためには量子力学の理解が必要である。シュレディンガー方程式を初めとし、第一原理計算、量子化学計算において重要となるハートリー・フォック方程式、コーン・シャム方程式についても学ぶ。</p> <p>(13 水野 斎/全5回) 有機半導体中の電荷輸送では励起子の振舞いが重要である。本講義では、有機太陽電池、有機エレクトロルミネッセンス(有機EL)素子などの有機半導体素子の基本原理を理解できるように、分子性結晶や有機薄膜等の固体中での励起状態や光物性について学ぶ。また、ナノサイズ材料の光学的性質についても学ぶ。</p> <p>(17 太田 優一/全5回) 物性物理・固体物理学の観点から無機系の半導体について学ぶ。特に最新鋭半導体として理解されるようになってきた、超ワイドバンドギャップ半導体についてデバイス応用も含めて説明する。また、化合物半導体におけるドーピングモデルについても解説を行う。本講義を通じて、物理学的な観点から半導体を理解する。</p>	オムニバス方式
		マイクロセンサ工学	<p>(概要) ロボットを実環境で動作させる場合、環境の変化をリアルタイムに知覚し、動作に適用することが重要である。本講義では、ミクロな世界での運動学や流体の性質を解説した上で、微弱な力や音を検知するマイクロセンサの原理・特性・製作プロセスを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 塚越 拓哉/全7回) 微視的なスケールでは、運動の様子も私たちの感覚と異なり、慣性力よりも粘性や張力に支配される。また、微視的なスケールのモノづくりには、作製上のデバイスをいかに観察するかという問題に常に直面する。本講義では、ミクロな世界での運動学や流体の性質について解説した上で、マイクロセンサの作製に必要な、物理法則、顕微鏡技術、微細加工技術などを学ぶ。</p> <p>(12 野田 聖太郎/全8回) 実際に使用されているマイクロセンサの原理と製造方法に関して学ぶ。具体的には人の五感に当たる物理現象を計測するセンサの原理・具体例・特徴に関して講義を通して学ぶとともに、マイクロセンサを製造するための微細加工方法について実際の加工設備を利用し、加工技術と加工プロセスを実体験する。</p>	オムニバス方式
必修	演習・研究	知能ロボット工学特別演習 I	<p>(概要) 修士論文の研究遂行のために必要となる当該分野および周辺分野の基礎的知識および応用能力を養成するために、セミナー形式で基礎的課題について演習・発表・討論を行う。</p> <p>具体的には、各教員が以下の研究分野に関わる基本的な知識を習得させ、基本的な課題を理解させる。</p> <p>(1 小柳 健一) 機構と制御と材料の機能を融合したロボティクス・メカトロニクスに関する研究</p> <p>(2 神谷 和秀) ナノメートルオーダーの変位計測および生体計測に関する研究</p> <p>(3 Mokhtari, Parham) 音声生成・立体音響・音楽演奏に関する研究</p> <p>(4 岩井 学) 環境調和型マイクロ・ナノ生産加工技術に関する研究</p> <p>(5 松本 公久) 半導体ナノマテリアルの発光特性に関する研究</p> <p>(6 増田 寛之) 人との共存・共生を目指した人・ロボット・環境の統合システムに関する研究</p> <p>(7 井戸 啓介) 視覚認知に関する心理物理学的・情報科学的研究</p> <p>(8 塚越 拓哉) MEMS力センサを用いた生き物の運動やバイタル情報に関する研究</p> <p>(9 森重 健一) 脳波・脳磁図のアーチファクト除去および脳情報解読手法に関する研究</p> <p>(10 澤井 圭) 移動ロボットの遠隔操作や位置推定等のロボットのための通信に関する研究</p> <p>(11 伊東 聡) 知的な精密計測と生産加工に関する研究</p> <p>(12 野田 聖太郎) マイクロ・ナノ領域の特性を利用した五感センサに関する研究</p> <p>(13 水野 斎) 有機半導体結晶の光学特性及び有機半導体デバイスに関する研究</p> <p>(14 森川 大輔) 立体音の知覚と再生に関する研究</p>	

必 修 ・ 研 究	演 習 ・ 研 究	知能ロボット工学特別演習 I	<p>(15 中井 満) パターン認識とヒューマンインタフェースに関する研究</p> <p>(16 岡崎 聡) 音の時間知覚に関する研究</p> <p>(17 太田 優一) 混晶半導体の電子状態に関する研究</p> <p>(18 孔 祥博) マルチモーダルAIに関する研究</p> <p>(19 松本 賢太) ヒトの巧みさの計測・解析と教示に関する研究</p>	
		知能ロボット工学特別演習 II	<p>(概要) 修士論文の研究遂行のために必要となる当該分野および周辺分野の基礎的知識および応用能力を養成するために、セミナー形式で基礎的課題について演習・発表・討論を行う。</p> <p>具体的には、各教員が以下の研究分野に関わる基本的な知識を習得させ、基本的な課題を理解させる。</p> <p>(1 小柳 健一) 機構と制御と材料の機能を融合したロボティクス・メカトロニクスに関する研究</p> <p>(2 神谷 和秀) ナノメートルオーダーの変位計測および生体計測に関する研究</p> <p>(3 Mokhtari, Parham) 音声生成・立体音響・音楽演奏に関する研究</p> <p>(4 岩井 学) 環境調和型マイクロ・ナノ生産加工技術に関する研究</p> <p>(5 松本 公久) 半導体ナノマテリアルの発光特性に関する研究</p> <p>(6 増田 寛之) 人との共存・共生を目指した人・ロボット・環境の統合システムに関する研究</p> <p>(7 井戸 啓介) 視覚認知に関する心理物理学的・情報科学的研究</p> <p>(8 塚越 拓哉) MEMS力センサを用いた生き物の運動やバイタル情報に関する研究</p> <p>(9 森重 健一) 脳波・脳磁図のアーチファクト除去および脳情報解読手法に関する研究</p> <p>(10 澤井 圭) 移動ロボットの遠隔操作や位置推定等のロボットのための通信に関する研究</p> <p>(11 伊東 聡) 知的な精密計測と生産加工に関する研究</p> <p>(12 野田 堅太郎) マイクロ・ナノ領域の特性を利用した五感センサに関する研究</p> <p>(13 水野 斎) 有機半導体結晶の光学特性及び有機半導体デバイスに関する研究</p> <p>(14 森川 大輔) 立体音の知覚と再生に関する研究</p> <p>(15 中井 満) パターン認識とヒューマンインタフェースに関する研究</p> <p>(16 岡崎 聡) 音の時間知覚に関する研究</p> <p>(17 太田 優一) 混晶半導体の電子状態に関する研究</p> <p>(18 孔 祥博) マルチモーダルAIに関する研究</p> <p>(19 松本 賢太) ヒトの巧みさの計測・解析と教示に関する研究</p>	
		知能ロボット工学特別研究	<p>(概要) 知能ロボット工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を行い、修士論文としてまとめる能力と研究成果を得る。</p> <p>具体的には、各教員が以下の研究分野の課題を解決するための研究開発と、その情報工学的および工学的な応用について研究指導を行う。</p> <p>(1 小柳 健一) 機構と制御と材料の機能を融合したロボティクス・メカトロニクスに関する研究</p> <p>(2 神谷 和秀) ナノメートルオーダーの変位計測および生体計測に関する研究</p> <p>(3 Mokhtari, Parham) 音声生成・立体音響・音楽演奏に関する研究</p> <p>(4 岩井 学) 環境調和型マイクロ・ナノ生産加工技術に関する研究</p> <p>(5 松本 公久) 半導体ナノマテリアルの発光特性に関する研究</p> <p>(6 増田 寛之) 人との共存・共生を目指した人・ロボット・環境の統合システムに関する研究</p>	

必修	演習・研究	知能ロボット工学特別研究	(7 井戸 啓介) 視覚認知に関する心理物理学的・情報科学的研究	
			(8 塚越 拓哉) MEMS力センサを用いた生き物の運動やバイタル情報に関する研究 (9 森重 健一) 脳波・脳磁図のアーチファクト除去および脳情報解読手法に関する研究 (10 澤井 圭) 移動ロボットの遠隔操作や位置推定等のロボットのための通信に関する研究 (11 伊東 聡) 知的な精密計測と生産加工に関する研究 (12 野田 堅太郎) マイクロ・ナノ領域の特性を利用した五感センサに関する研究 (13 水野 斎) 有機半導体結晶の光学特性及び有機半導体デバイスに関する研究 (14 森川 大輔) 立体音の知覚と再生に関する研究 (15 中井 満) パターン認識とヒューマンインタフェースに関する研究 (16 岡崎 聡) 音の時間知覚に関する研究 (17 太田 優一) 混晶半導体の電子状態に関する研究 (18 孔 祥博) マルチモーダルAIに関する研究 (19 松本 賢太) ヒトの巧みさの計測・解析と教示に関する研究	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(情報工学研究科情報工学専攻 (博士後期課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修	演習・研究 情報工学特別演習	<p>(概要) 博士の学位論文を作成するために必要な課題設定能力の養成、課題解決能力の向上を目的として、具体的研究テーマの設定、研究遂行プロセスについて演習・討論を行う。</p> <p>1 データサイエンス分野</p> <p>(1 高木 昇) 人工知能技術に立脚した福祉情報工学や教育工学に関する研究</p> <p>(5 奥原 浩之) 産業・経済・金融における数理工学に関する研究</p> <p>(8 高野 博史) ヒューマンセンシングによるヒトの感情認識や生体個人認証に関する研究</p> <p>(10 本吉 達郎) 教育・学習や対人援助を支援するインタフェースに関する研究</p> <p>(11 中村 正樹) 数学に基づくシステムの設計, 検証, 実装に関する研究</p> <p>(13 神原 一紀) システム最適化に基づく、かきこい問題解決の実現に関する研究</p> <p>(22 長谷川 晃) AIを用いた医療画像診断支援システムの開発</p> <p>(25 Rene, Antonio) 上級統計分析に関する研究</p> <p>2 情報システム工学分野</p> <p>(2 中田 崇行) 3次元環境におけるオブジェクトの位置姿勢を認識する技術に関する研究</p> <p>(7 唐山 英明) 生体情報や行動情報等の人間情報の計測と解析に関する研究</p> <p>(9 田川 和義) バーチャルリアリティとその応用に関する研究</p> <p>(14 岩本 健嗣) センサを利用したユーザーの状況認識に関する研究</p> <p>(18 浦島 智) ユビキタスセンサ情報による行動識別とその応用に関する研究</p> <p>3 知能ロボット工学分野</p> <p>(3 小柳 健一) 機構と制御と材料の機能を融合した包括的ロボティクスに関する研究</p> <p>(4 神谷 和秀) ナノメートルオーダーの変位計測および生体計測に関する研究</p> <p>(6 Mokhtari, Parham) 音声生成・立体音響・音楽演奏に関する研究</p> <p>(12 岩井 学) 環境調和型マイクロ・ナノ生産加工技術に関する研究</p> <p>(15 松本 公久) 半導体ナノマテリアルの発光特性に関する研究</p> <p>(16 増田 寛之) 人との共存・共生を目指した人・ロボット・環境の統合システムに関する研究</p>	

必修	演習・研究	情報工学特別演習	<p>(17 井戸 啓介) 視知覚の特性とメカニズムに関する心理物理学的研究</p> <p>(19 塚越 拓哉) MEMS力センサを用いた生き物の運動やバイタル情報に関する研究</p> <p>(20 森重 健一) 脳波・脳磁図のアーチファクト除去および脳情報解読手法に関する研究</p> <p>(21 澤井 圭) ロボットのための通信に関する研究</p> <p>(23 伊東 聡) 知的な精密計測と生産加工に関する研究</p> <p>(24 野田 堅太郎) マイクロ・ナノ領域の特性を利用した五感センサに関する研究</p> <p>(26 水野 斎) 有機半導体結晶の光学特性及び有機半導体デバイスに関する研究</p> <p>(27 森川 大輔) 立体音の知覚と再生に関する研究</p>	
		情報工学特別研究	<p>(概要) 情報工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を行い、博士論文としてまとめる能力と研究成果を得ること。</p> <p>1 データサイエンス分野</p> <p>(1 高木 昇) 人工知能技術に立脚した福祉情報工学や教育学に関する研究 研究指導補助教員:22 長谷川 晃</p> <p>(5 奥原 浩之) 産業・経済・金融における数理工学に関する研究 研究指導補助教員:25 Rene, Antonio</p> <p>(8 高野 博史) ヒューマンセンシングによるヒトの感情認識や生体個人認証に関する研究</p> <p>(10 本吉 達郎) 教育・学習や対人援助を支援するインタフェースに関する研究</p> <p>(11 中村 正樹) 数学に基づくシステムの設計、検証、実装に関する研究</p> <p>(13 榎原 一紀) システム最適化に基づく、かきこい問題解決の実現に関する研究</p> <p>2 情報システム工学分野</p> <p>(2 中田 崇行) 3次元環境におけるオブジェクトの位置姿勢を認識する技術に関する研究 研究指導補助教員:18 浦島 智</p> <p>(7 唐山 英明) 生体情報や行動情報等の人間情報の計測と解析に関する研究</p> <p>(9 田川 和義) バーチャルリアリティとその応用に関する研究</p> <p>(14 岩本 健嗣) センサを利用したユーザーの状況認識に関する研究</p> <p>3 知能ロボット工学分野</p> <p>(3 小柳 健一) 機構と制御と材料の機能を融合した包括的ロボティクス及びそれをバーチャルリアリティや医療福祉分野に応用する研究</p> <p>(4 神谷 和秀・12 岩井 学) ナノメートルオーダーの変位計測および生体計測に関する研究, および環境調和型マイクロ・ナノ生産加工技術に関する研究 研究指導補助教員:23 伊東 聡</p> <p>(6 Mokhtari, Parham) 音声生成・立体音響・音楽演奏に関する研究 研究指導補助教員:17 井戸 啓介・20 森重 健一・27 森川 大輔</p> <p>(15 松本 公久) 半導体ナノマテリアルの発光特性に関する研究 研究指導補助教員:19 塚越 拓哉・24 野田 堅太郎・26 水野 斎</p> <p>(16 増田 寛之) 人との共存・共生を目指したロボットコミュニケーションに関する研究, および人・ロボット・環境の統合システムに関する研究 研究指導補助教員:21 澤井 圭</p>	

必修	専攻共通	分野横断型特別講義	近年の情報工学に関連する技術発展には目覚ましいものがあり、非常に幅広い分野へ応用され社会発展に貢献している。このような背景のもと、当該講義では情報工学専攻の三分野(データサイエンス分野、情報システム工学分野、知能ロボット工学分野)の研究を中心に、本学の特徴を活かして工学や看護学の先端的な研究内容を講義する。なお、コーディネーターは専任教員が務める。	
----	------	-----------	---	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

公立大学法人富山県立大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度（2025年度）	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度（2026年度）	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
富山県立大学				富山県立大学				
工学部				工学部				
機械システム工学科	60	—	240	機械システム工学科	60	—	240	
電気電子工学科	45	—	180	電気電子工学科	45	—	180	
環境・社会基盤工学科	55	—	220	環境・社会基盤工学科	55	—	220	
生物工学科	40	—	160	生物工学科	40	—	160	
医薬品工学科	35	—	140	医薬品工学科	35	—	140	
計	235	—	940	計	235	—	940	
情報工学部				情報工学部				
データサイエンス学科	40	—	160	データサイエンス学科	40	—	160	
情報システム工学科	60	—	240	情報システム工学科	60	—	240	
知能ロボット工学科	60	—	240	知能ロボット工学科	60	—	240	
計	160	—	640	計	160	—	640	
看護学部				看護学部				
看護学科	120	—	480	看護学科	120	—	480	
計	120	—	480	計	120	—	480	
学部計				学部計				
学部計	515	—	2,060	学部計	515	—	2,060	
富山県立大学大学院				富山県立大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
博士前期課程				博士前期課程				
機械システム工学専攻	20	—	40	機械システム工学専攻	24	—	48	定員変更(4)
知能ロボット工学専攻	20	—	40		0	—	0	令和8年4月学生募集停止
電子・情報工学専攻	27	—	54		0	—	0	令和8年4月学生募集停止
環境・社会基盤工学専攻	15	—	30	環境・社会基盤工学専攻	15	—	30	
生物・医薬品工学専攻	26	—	52	生物・医薬品工学専攻	30	—	60	定員変更(4)
計	108	—	216	電気電子工学専攻	15	—	30	専攻の設置(届出)
博士後期課程				博士後期課程				
総合工学専攻	10	—	30	総合工学専攻	6	—	18	定員変更(Δ4)
計	10	—	30	計	6	—	18	
情報工学研究科				情報工学研究科				
博士前期課程				博士前期課程				研究科の設置(届出)
データサイエンス専攻	14	—	28	データサイエンス専攻	14	—	28	
情報システム工学専攻	24	—	48	情報システム工学専攻	24	—	48	
知能ロボット工学専攻	24	—	48	知能ロボット工学専攻	24	—	48	
計	62	—	124	計	62	—	124	
博士後期課程				博士後期課程				
情報工学専攻	4	—	12	情報工学専攻	4	—	12	
計	4	—	12	計	4	—	12	
看護学研究科				看護学研究科				
博士前期課程				博士前期課程				
看護学専攻	10	—	20	看護学専攻	10	—	20	
計	10	—	20	計	10	—	20	
博士後期課程				博士後期課程				
看護学専攻	2	—	6	看護学専攻	2	—	6	
計	2	—	6	計	2	—	6	
大学院計				大学院計				
大学院計	130	—	272	大学院計	168	—	348	
富山県立大学看護学専攻科				富山県立大学看護学専攻科				
公衆衛生看護学専攻	15	—	15	公衆衛生看護学専攻	15	—	15	
助産学専攻	10	—	10	助産学専攻	10	—	10	
看護学専攻科計	25	—	25	看護学専攻科計	25	—	25	